

経営発展支援事業を活用した先輩農業者のすがた(初期投資【機械や施設を購入】されたみなさん)

～北海道・東北・関東地方～

【経営発展支援事業】

採択年度	営農類型	米麦等	野菜等	果樹	畜産
令和4年(2023年)		福島県 鈴木 義彦 さん	北海道 濱田 剛・きずき さん	山形県 古山 寛 さん	岩手県 匿名希望 さん
		※島根県 匿名希望 さん	青森県 斉宮 大・知佳 さん	※島根県 匿名希望 さん	岐阜県 岡山 直人 さん
		※鹿児島県 中村 隆太郎 さん	秋田県 吉田 真大 さん	徳島県 匿名希望 さん	熊本県 田上 直人 さん
			山形県 中村 誠 さん		鹿児島県 匿名希望 さん
			埼玉県 横田 寛明 さん		
			栃木県 H. M・T さん		
			石川県 番場 智仁 さん		
			三重県 匿名希望 さん		
			京都府 芦田 泰子 さん		
			奈良県 木村 幸啓 さん		
			兵庫県 村上 玄一 さん		
			鳥取県 森田 智史 さん		
			山口県 匿名希望 さん		
			高知県 武政 大地 さん		
			宮崎県 匿名希望 さん		
		鹿児島県 竹之内 憲俊 さん			
		鹿児島県 山元 真之介 さん			
		鹿児島県 佃 和絵 さん			
		※鹿児島県 中村 隆太郎 さん			

※ 複数の類型について営農

濱田 剛さん(48歳) きずきさん(44歳)

(営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

花苗を取り扱う会社や飲食関係の仕事に勤めたことで、「土」や「食」に関係する仕事に就きたいと考えていた。「食」に関わる仕事を模索する中で、知人からの紹介もあり、月形町の地域おこし協力隊(農業研修員)に応募。2年間栽培技術を学んだ後、比較的初期投資が少ないミニトマト栽培を中心とした営農を開始。

導入した機械・施設等

- ・ロータリー等
アタッチメント一式



初期投資を行う上で留意したポイント

月形町で地域おこし協力隊として2年間活動を行う間、将来にわたって農業経営を続けていくためにはどのような施設や機械が必要であるかを考え、十分な投資計画や営農計画を練った上で必要な機械・施設を積極的に導入。

導入の効果

- ・農業の基本となる「土づくり」に関する関連機械を導入したことにより、作業時間の効率化や計画的な栽培、安定的な収量の確保が図られた。
- ・ミニトマトの茎や葉などを堆肥化するとともに、圃場へすき込み、土壌へ還元を進めることで、化学肥料の低減とコスト削減を図った。

就農の状況と今後

就農準備 (R2.4~R4.3)

- ・地域おこし協力隊として活動しながら農業研修を行い、就農開始時の資金を貯蓄。
- ・JAや普及員から営農計画等に関するアドバイスを受けながら、青年等就農計画を作成。

現在 (就農1年目)

- ミニトマト11a (ハウス4棟)
- ・夫婦での農業経営開始。
- ・国や町の補助金を活用しハウス施設、倉庫やロータリー等アタッチメント一式を導入。
- ・収量を向上させるため、土壌の改良を実践。

今後の目標 (就農5年後)

- ミニトマト70a (ハウス8棟)
- ・所得を安定的に確保するため、機械やハウス設備の拡充を進めていきたい。
- ・農業所得は550万円を目指す

斉宮 大さん（32歳） 知佳さん（37歳）

（営農類型：施設野菜）

新規就農を志した経緯・背景

自分の頑張りが作物の品質や収量に反映されやすい職業として、農業に魅力を感じていた。また、りんご農家である親の手伝いを通して、農作業が楽しいと思うようになり、就農を決意。農業次世代人材投資事業（準備型）を利用して先進農家の下で栽培技術を学び、令和4年から経営開始。

導入した機械・施設等

パイプハウス2棟

（環境観測装置、自動灌水装置、自動換気装置含む）



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・ 専業農家として生活するためには、確実な収益を見込める経営計画が必要と考えた。そのため、綿密に計画を作成し、計画達成に必要な機械、設備を積極的に調査した。
- ・ 農業は天候に左右されやすいため、気候影響の少ない施設栽培に着目した。また、温度や湿度の異常をいち早く検知できるよう、環境観測装置の導入を検討した。

導入の効果

- ・ ハウス増設によって複数品種の栽培が可能となり、経営の安定化が見込めるようになった。
- ・ 環境観測装置導入により、ハウス内に異常が発生した場合はすぐに対処できるようになった。また、膨大な環境データと生育診断結果を関連させることで、収量の安定化が期待できるようになった。

就農の状況と今後

就農準備（R2～R3）

<R2>

- ・ 「新・農業人フェア」に参加
- ・ 先進農家と交流開始
- ・ 営農計画を作成開始

<R3>

- ・ 農業次世代人材投資事業（準備型）を利用し、先進農家の下で研修開始

外部リンクは
こちら！

現在（就農1年目）

ミニトマト6.5a（ハウス2棟）

- ・ ハウス2棟を新設し、夫婦共同で農業経営開始
- ・ 経営発展支援事業を利用し、ハウスを2棟増設

今後の目標

ミニトマト13a（ハウス4棟）

- ・ 販路を新たに開拓する。
- ・ 作業の効率化、栽培スキル向上を図る。

匿名希望 さん (29歳)

(営農類型：繁殖牛)

新規就農を志した経緯・背景

- ・実家が畜産経営を行っており、幼い頃から就農（畜産業）したい気持ちがあった。10年間は、農業関係団体に勤めていたが、改めて就農したいと思っていたところ、第三者継承の話を目にし、就農を決意した。
- ・本格的な経営開始前に実家や継承元で技術を学び、令和4年9月に経営を開始。

導入した機械・施設等

繁殖肉用牛 18頭



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・利用可能な畜舎（一部）や機械は第三者継承により取得することで、初期投資にかかる費用を抑えた。
- ・今後の経営を見据え、さらに初期費用を抑えるため、国庫事業やJA事業等の複数事業を活用して、家畜の導入や畜舎の修繕等を行った。

導入の効果

- ・事業を活用して家畜の導入を行うことで、初期費用を抑えられたとともに、今後の確実な収入確保につながった。
- ・今後は計画的に出荷を行い、新たな機械や雇用の導入を検討しつつ、就農5年後には所得320万を目指す。

就農の状況と今後

就農準備 (R4.5~9)

- ・実家や継承元で研修を行い、技術を習得。
- ・各関係機関から支援を受け、複数事業の活用準備（青年等就農計画の認定や家族経営協定の締結等）を実施。

現在 (就農1年目)

繁殖肉用牛：20頭
預託肥育牛：112頭

- ・第三者継承により、畜舎及び機械を取得するとともに、事業を活用し、家畜を導入。
- ・日々の作業は、継承元の支援を受けながら実施。

今後の目標 (就農5年後)

繁殖肉用牛：25頭
預託肥育牛：192頭

- ・計画的にパート雇用を行い、月1回程度の休暇が取れる経営を目指す。
- ・農業所得の目標は320万円。

吉田 真大 さん (21歳)

(営農類型：露地・施設野菜)

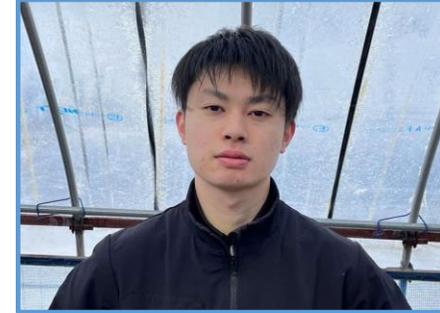
新規就農を志した経緯・背景

祖父が農業をしていた影響で興味を持ち、高校では農業コースに進学、卒業後は隣県の営農大学校へと進み、主に中玉トマトの隔離栽培について学んだ。

この先は「知識」よりも「技術」という実践意識のもと、大学卒業直後の令和4年に就農。認定農業者である祖父や周囲の仲間を「師匠」に、農業者としての腕を磨く。

導入した機械・施設等

- ネギ根葉切り皮むき機 1台
- 防除機 1台
- パイプハウス 1棟



初期投資を行う上で留意したポイント

- 単一品目でのリスク回避のため、複数の園芸品目の組合せを模索し、就農初年目からネギとミニトマト栽培に取り組むこととした。
- 品目間で共有できない機械は、その分、初期投資が高むことになるが、借用可能な機械や施設については極力それらを利用することとし、ネギで最も労力を要する調製機械、頻繁に使用する防除機や生産拠点となるパイプハウスは事業導入することとした。

導入の効果

- ネギ根葉切り皮むき機導入により、収穫後、出荷までに求められる速やかな調製に、円滑に対応することができた。
- 防除機導入で適期防除が可能となった。
- パイプハウスは、ミニトマト生産において、降雨をはじめとする環境の影響を抑えるうえで必須となっており、事業導入したことで安定的に品質を保つことができた。

就農の状況と今後

就農準備 (R2~4)

- 営農大学校での課題研究、祖父からのアドバイスや友人との情報交換を通じ技術を取得
- JAや市から営農計画等に関する助言を得て、青年等就農計画を作成
- 小型特殊自動車、フォークリフト、大型特殊自動車の免許取得



現在 (就農1年目)

- ネギ 10.0a
ミニトマト 2.6a (ハウス1棟)
- 露地10aと事業で新設したハウス1棟で農業経営を開始
 - 農業所得は約25万円



今後の目標 (就農4年後)

- ネギ 42.0a
ミニトマト 9.2a (ハウス3棟)
- 収益拡大と経営の安定化に向け、ミニトマトのハウス2棟を増設
 - 農業所得の目標は196万円

中村 誠 さん (46歳)

(営農類型：露地・施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

約25年間会社員をしていたが、自分の手でものづくりをしたいとの思いがあり農業に興味を持つようになった。

自分で野菜を作りたいと考えるようになり、農業就業人口の高齢化により担い手が不足していることも知り、必要とされている仕事をしたいとの思いもあり、就農を決意した。

導入した機械・施設等

トラクター
運搬車



初期投資を行う上で留意したポイント

就農開始時に必要な設備を整理し、優先順位を付けて導入の検討をした。資材等の価格高騰が始まった時期と就農開始時期が重なり、値上がり前に導入しコストを抑えたいと思い、情報の収集に注力した。

導入の効果

トラクターを導入したことにより、いつでも使用できるため最適なタイミングで耕うんができるようになった。

運搬車を導入したことにより、栽培終了後のミニトマトをハウスから搬出する際の労力と時間を削減できる。また、重量物の運搬が楽になった。

就農の状況と今後

就農準備 (R3)

先進農家での研修期間中に準備を進めた

- ・農地の取得
- ・パイプハウスの建設準備
- ・資金の準備 (融資)
- ・資材の購入

現在 (就農1年目)

ミニトマト(施設栽培)11a
ブロッコリー(露地)20a

(冬期間)
わさび菜(施設栽培)11a

今後の目標 (就農5年後)

ミニトマト(施設栽培)22a
ハウスを増やしミニトマトの栽培面積を拡大したい

ネット販売など直販で収入を増やしたい

古山 寛 さん (32歳)

(営農類型：露地・施設果樹)

新規就農を志した経緯・背景

祖父が農業を行っていたため、農業が身近で興味を持っており、高校・大学と農業を学んだ。食品会社に勤め、農家の方々と仕事をしているうちに自分も生産者になりたいという気持ちが芽生え、農業体験や情報収集を経て就農を決意。寒河江市に移住して、農業次世代人材投資事業（準備型）で2年間研修ののち、令和4年に独立就農開始。

導入した機械・施設等

スピードスプレー 1台



初期投資を行う上で留意したポイント

- 作業の省力化・効率化を図り、将来にわたって経営を安定させるために初期投資を行い、投資計画を練った上で必要な機械を導入した。
- どのようなものを整備すると良いか、経営開始前から地域の先輩農家の方々に相談した。

導入の効果

- スピードスプレーを導入することにより、経営規模拡大が図れる。
- 作物（品種）の組み合わせにより安定生産と労働力の平準化を図るとともに、機械を導入し作業の省力化・効率化を進めることで、経営発展や持続可能な農業を目指す。

就農の状況と今後

就農準備 (R2~R3)

- 農業次世代人材投資事業（準備型）を活用し、令和2年4月に先進農家で研修開始
- 先輩農家の方々にアドバイスを受けながら、就農準備を進める



現在 (就農1年目)

さくらんぼ 18a りんご 20a
ラ・フランス 12a もも 40a

- 事業を活用し、スピードスプレー導入
- 令和4年4月に経営開始
- 農業所得は約160万円



今後の目標 (就農5年後)

さくらんぼ 25a りんご 20a
ラ・フランス 23a もも 55a

- 販路を新たに開拓し、個人贈答・インターネット販売に着手
- 農業所得の目標は250万円

(営農類型：水稲)

鈴木 義彦さん (32歳)

新規就農を志した経緯・背景

子供のころから農業をやりたいという夢があり、高校卒業後は農業短期大学にて技術・経営を学んだ。民間企業で勤務していたが、親の年齢を考慮し就農を決意した。本格的な就農の前に親元で栽培技術を学び、令和4年度に親から継承、経営を開始した。

導入した機械・施設等

コンバイン（4条）1台



初期投資を行う上で留意したポイント

今後規模拡大するにあたり、機械の導入や更新が必須となっていた。特に資金が必要となる大型機械について、補助事業・融資をスムーズに活用できるよう、早めに関係機関に相談していた。

導入の効果

コンバイン（4条）の導入により、午前中に籾摺りを行い、午後から刈取を開始しても、乾燥機がいっぱいになり、作業効率が上がった。

今後は、乾燥機の導入も検討して、さらなる作業効率向上に努めたい。

就農の状況と今後

就農準備（R3）

- 親からアドバイスを受けながら栽培技術を習得。
- 市、県のサポートを受け、青年等就農計画を作成。



現在（就農1年目）

水稲（660a）

- 親の農業経営を継承
- コンバイン（4条）を導入し、規模拡大にむけて準備を始めた。
- 農業所得は約150万円。



今後の目標（就農5年後）

水稲（1,000a）

- 地域で離農する方から農地を借り規模拡大する。
- 農業所得目標は440万円。

横田 寛明さん (24歳) (営農類型：施設野菜 [きゅうり])

新規就農を志した経緯・背景

昔から祖父の実家で畑仕事を手伝っていた。その中で、農業で生活していきたいと思うようになった。

そんな時、地域にブランド化された野菜があることを知った。そこで、農業大学校に入学し、農業経営に必要な基礎的な知識や技術等を学んだ。その後、担い手塾に入り、実践的な指導を受けた。担い手塾卒業後の令和4年に新規就農した。

導入した機械・施設等

鉄骨ハウス 10a
(暖房機、内張等)



初期投資を行う上で留意したポイント

- ・指導農業士や他の生産者からのアドバイスを参考にした。
- ・平成26年の雪害により、地域のきゅうり栽培施設で被害が発生したことから、耐候性が十分なハウスにした。
- ・大型ハウスという大きな金額の投資なので、リスクとリターンを慎重に判断した。

導入の効果

将来にわたりきゅうりを栽培するため、災害に強いハウスを導入することで安心して営農することができる。

換気やかん水等を自動化することで、管理・選果作業等に集中して労力がかけられる。

就農の状況と今後

就農準備 (H31~R3)

野菜栽培技術の座学及び実習、
農業簿記等の経営に関する講義等 (大学校)
きゅうり栽培全般 (農業担い手塾)

- ・平成31年度埼玉県農業大学校入学
- ・令和3年度小鹿野町[明日の農業担い手育成塾](#)卒業。

外部リンクは
[こちら](#)

現在 (就農1年目 R4)

施設きゅうり 10a

- ・担い手塾研修ハウス5aを継続して借り、半促成と抑制きゅうりを栽培。
- ・鉄骨ハウス10aを建設後、令和5年2月から半促成きゅうりの栽培を開始。

今後の目標 (就農5年後 R9)

施設きゅうり 10a

- ・農業所得の目標は350万円
- ・週休2日の導入。

H.Mさん(46歳) H.Tさん(45歳)

(営農類型：施設野菜)

新規就農を志した経緯・背景

H.Mさんは、県外の園芸高校を卒業、青果物販売に携わっていたが、大好きないちごを自分で作りたと思うようになったため、夫婦で栃木県内のいちご農家へ独自に農家研修した。

その後、鹿沼市のいちご研修制度で2年間学んだ後、令和4年度に農地取得（貸借）、機械・施設整備を行い、独立自営就農した。

導入した機械・施設等

パイプハウス 6棟



初期投資を行う上で留意したポイント

- 青年等就農計画を作成する際、普及員や市役所、JA、研修派遣先の農業法人等に相談しながら施設整備内容を検討、経営発展支援事業や県・市単補助事業を組み合わせ、自己負担額を抑えた。
- 小規模でも高単収を目指すため、経営開始前からJAや地域の先輩農家等に相談して、中古の機械を探してもらいながら、投資計画を練った上で必要な機械・施設を導入した。

導入の効果

- ハウスを整備することにより、いちご栽培を開始することができ、年内から出荷が可能になった。
- 今後は、2年目以降の黒字化を図るとともに、就農4年目に規模を拡大、雇用の導入を図ることで、就農5年後には所得目標の達成を目指す。

就農の状況と今後

就農準備 (H30~R3)

◇H30~R元 (夫婦で研修)
いちご生産、出荷調整作業等

◇R2~R3 (H.Mさん)

鹿沼市いちご新規就農者研修

- 1年目は複数品種のいちご栽培について、一連の栽培技術研修
- 2年目は自分の研修用ハウスを管理して、実践的研修

現在 (就農1年目)

いちご (土耕) 17.3a
(パイプハウス6棟)

- 育苗ハウス1棟、井戸ポンプ、出荷調整施設、炭酸ガス発生装置、畝立て機、軽トラ(中古)、トラクタ(中古)、動力噴霧器(中古)等
- R4年12月から出荷開始

今後の目標 (就農5年後)

いちご (土耕) 20.2a
(パイプハウス7棟)

- 新品種「とちあいか」や新技術の導入による収穫量の増加、作業の効率化を目指す
- 目標9.7t (480kg/10a)
(全量JA出荷)